



# 東京YMCA

2012 7/8月号 発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司  
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL http://tokyo.ymca.or.jp

## 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

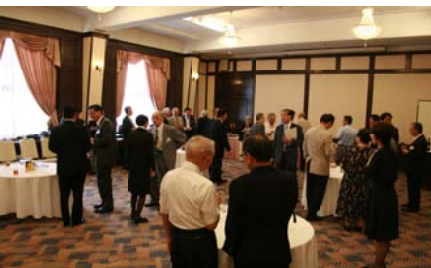
賛助会年会・アドバイザー会

## 企業と協働し 社会創る

### 賛助会企業に感謝と表彰

今年度の「賛助会年会・アドバイザー会」が、7月19日、学士会館を会場に開催され、賛助会員17企業・団体と、アドバイザー、評議員など34人が来会された。

賛助会とは、東京YMCAを支援していただく企業・団体による組織で、現在は147社が登録している。物品の提供、社員ボランティアの派遣など、多大なるご協力をいただいた。永年継続会員には感謝とお礼の表彰を行い、北城会長から感謝状が贈呈された。また新入会員の紹介も目立った。その後、田中壽夫評議員副会長による祈動を報告するとともに、各種表彰などを行なった。徳久俊彦学校法人理事長による乾杯で、懇談の時間もあった。席上、東日本大震災復興支援活動を担当している職員の前上祐介(日本アイ・ビー・エム株式会社相談役)が、これまでの支援にあり、今後の支援活動継続の必要についてアピールされた。午後4時に閉会した。



勝田正佳評議員会長をもち、北城会長挨拶に続き、北城格太郎賛助会会長(日本アイ・ビー・エム株式会社相談役)が、これまでの支援にあり、今後の支援活動継続の必要についてアピールされた。午後4時に閉会した。

## 東京YMCA賛助会 北城会長メッセージ

### 企業の支援を“テコ”にして



北城格太郎氏  
東京YMCA賛助会会長  
東経同友会理事  
東日日本アイ・ビー・エム株式会社相談役

賛助会会員の皆様、アドバイザーの方々、日ごろ私ども東京YMCAの活動を支援いただいている方々に、心から感謝を申し上げます。また、昨年の東日本大震災の復興支援活動で、賛助会会員皆様から大変多くのご寄付をいただきました。その尊い寄付を、多くのご寄付を解決するのサポートをさせていただきます。

### 2012年度 表彰賛助会員

- ◆新入会員 上田八木短資株式会社
- ◆継続10年 YMサービス株式会社
- ◆継続15年 株式会社メディア・ボックス
- ◆継続20年 一般社団法人東京消防設備保守協会
- ◆継続30年 株式会社システムコミュニケーションズ
- ◆継続35年 株式会社東京保険サービスイオン株式会社
- ◆継続40年 野村ホールディングス株式会社  
株式会社日立ハイテクノロジーズ  
株式会社芝パークホテル

### 賛助会 入会のご案内

東京YMCAでは、賛助会員になってくださる企業等法人を募集しています。年会費は3万～50万円です。主旨ご理解のうえ、ぜひご入会いただきたくお願いします。お問合わせは賛助会事務局 (tel. 03-3615-5568) まで。

## 聖路加国際病院・YMCAぐらぐらぐらキャンパス

「聖路加国際病院YMCAぐらぐらキャンパス」が7月14日～16日の3泊3日で、山中湖センターにて行われた。このキャンパスは、聖路加国際病院形成外科の松井瑞子医師の患者とその家族を対象にしたもので、キャンプを通して、自然の中でのさまざまな体験、仲間との出会い、達成感を通して、生



活にも治療にも前向きに取り組む、過ごして欲しいとの願いのもと行われた。昨年、第1回目が日本YMCA同盟東山荘(御殿場)で実施され、今年も主幹として東京YMCAがキャンプの運営を担当し、主催は日本YMCA同盟、聖路加国際病院が共催、ピザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社と協賛して、新たな協働の形による総合力で行われた。メンバー(幼児～高校生)・保護者31人、スタッフ・リーダー・医師・看護師等25人の総勢56人によるキャンプとなった。キャンプディレクターは村上祐介が担当し、プログラムディレクターは山梨雄一(南センター)が担当した。1日目の到着後はポイントハイイクでキャンプ場内を散策した。自然の豊かさの中にもバリアフリーの理念に基づき設計されたキャンプ場は、車椅子のメンバーにも好評であった。2日目は、野外炊飯を行い、保護者グループが飯ごうで

の炊飯とサラダ、フルーツポンチ作りを担当。メンバーが男女混合のグループでカレー作りに取り組んだ。参加者合作のカレールイスの味は格別であった。3日目は、珍しく午前中ずっと富士山がくっきりと見える快晴の中、ピックアップを満喫した。グループ皆で力を合わせ、パドルを漕ぎ、胸を躍らせた体験となった。キャンプ中、たくさんの歌を歌った。中でも「子どもたちのおひさま やさしいところ」のキャンプソングを食堂や帰りのバス内で響かせた子どもたちの笑顔が印象的であった。

## 赤三角

8月は、広島・長崎に原爆が落とされ、日本が戦争に負けた記念の月である。67年前の8月15日は暑い暑い日で、ラジオから聞こえて来る天皇の声は聞き取り難かったが、戦争が終わったことだけは判った。そこから価値観の大転換が行われ「民主主義」の時代となった。幸い占領はアメリカ軍主体であったために、キリスト教界は戦争協力を忘れたかのように喜び、昭和20年代は教会にもYMCAにも人々が溢れた。▼その「廃墟」から60余年、私達の世は平和で食べられるような国を目指して苦闘して来た。しかしこの国の現状を見ると、これで良かったかと思うところも多い。そして今や世界も日本も問題山積である。▼多くの教会は高齢化し、東京YMCAでも会員に40代、50代の有力な層が薄い。かつての若手リーダー達を組織的に繋げて行くことに成功していない。今から30年前、「年寄り引退して、OMCA」を作り、YMCAは文字通りヤングに任せよう。」と問題提起をした役員がいたが、結局は何も変わらなかった。▼だが、昨年東日本に大震災が起きた時、多くの若者が自発的に支援に加わり、それをYMCAの若手職員・リーダーがオルガナイズして大きな貢献をした。これは大きな希望である。我々の未来は若者の双肩に掛かっている。

(学校法人東京YMCA学 院理事長 徳久俊彦)

### 手間をかけてこそ

すべての人を一つにしてください

「待っても無駄なことがある、待っても駄目なこともある、待ってもむなしきことばかり、それでもわたしはじっと待つ」相田みつを

家庭菜園で野菜を育てています。きゅうり、ナス、トマトなどが雨の中で育っていくのを見るのは、やがて食卓に上る菜しむもあわせて幸せなひと時です。種をまき、まき、苗を植える、あとい間育ててくれる間は、いのですが、そうは行かないです。DNAに仕込まれた日数と太陽と雨が必

「待つことも無駄なことがある、待っても駄目なこともある、待ってもむなしきことばかり、それでもわたしはじっと待つ」相田みつを

